

◎特集 1 / 「やまなしの教育振興プラン」策定！！

◎特集 2 / 開館 30 周年記念展「山梨に眠る秘蔵の日本美術」

- 平成 21 年度第 30 回関東地区学校図書館研究大会甲府大会
- 「農村漁村生活体験事業」実施報告
- 知ろう山梨の歴史！「山梨の遺跡展 2009」と各種事業の紹介
- 「平成 20 年度新体力テスト・健康実態調査」結果の概要
- 「やまなし若者地域活性化プロジェクト推進事業」実施報告
- ミュージアム甲斐・ネットワーク / TEPCO 葛野川 PR 館
平山郁夫シルクロード美術館
- らくがき …… 山梨園芸高校 宮澤芳美教諭
やまびこ支援学校 武井恒教諭
- 県立文学館開館 20 周年記念 太宰治展 生誕 100 年
- 学校紹介 / 上野原市立平和中学校・北杜高校
- 総合教育センター情報 / 教育相談部
- 新教育委員長就任挨拶
- 峡東地域新設高校の校名募集について
- 県立図書館 / 「レファレンスの道具箱 山梨の祭りについて調べる」
- 山梨の文化財 / 県指定史跡 武田勝頼の墓 (甲州市景德院)
- 主な行事予定



特集1

「やまなしの教育振興プラン」策定！！

県教育委員会では、時代の要請に的確に応えながら、本県教育の一層の振興を図るため、平成21年度から平成25年度の5年間の教育の基本指針として、「やまなしの教育振興プラン」を策定しました。

この計画では、「ふるさとを愛し、世界に通じる人づくり」の基本理念の下、「個性を生かし、生きる力をはぐくむ『やまなし』人づくり」と、「豊かで潤いがあり、明るく活気に満ちた『やまなし』社会づくり」の2つを基本目標とし、これを実現するために、6つの重点施策、施策の概要、目標となる指標等を定めています。

計画の推進にあたっては、「夢をはぐくみ、自立して生きていく力を培う『体系的なキャリア教育の推進』と「みんなで、子どもを見守りはぐくむ『地域全体で取り組む教育の推進』」に、特に力を傾注していきたいと考えています。

□基本理念

「ふるさとを愛し、世界に通じる人づくり」

質的な充実を求める社会への移行、雇用形態の多様化、少子高齢化・核家族化の進行、国際化の進展等、社会が変化する中、“大きく変化する社会に対応できる人づくり”を、家庭・地域・学校等、社会全体が連携して進めていくことが求められています。

山梨の未来を担う子どもたちが、ふるさとの自然や人々とふれ合い、夢や希望を持ち意欲的に学び、学力や心の豊かさ、たくましさ身に付け

れる教育環境を整えるとともに、文化やスポーツの振興を図り、県民が生涯を通じて生きがいを持つて学ぶことができる社会づくりに取り組むことにより、ふるさとを愛し、世界に通じる人づくりを目指します。

□基本目標

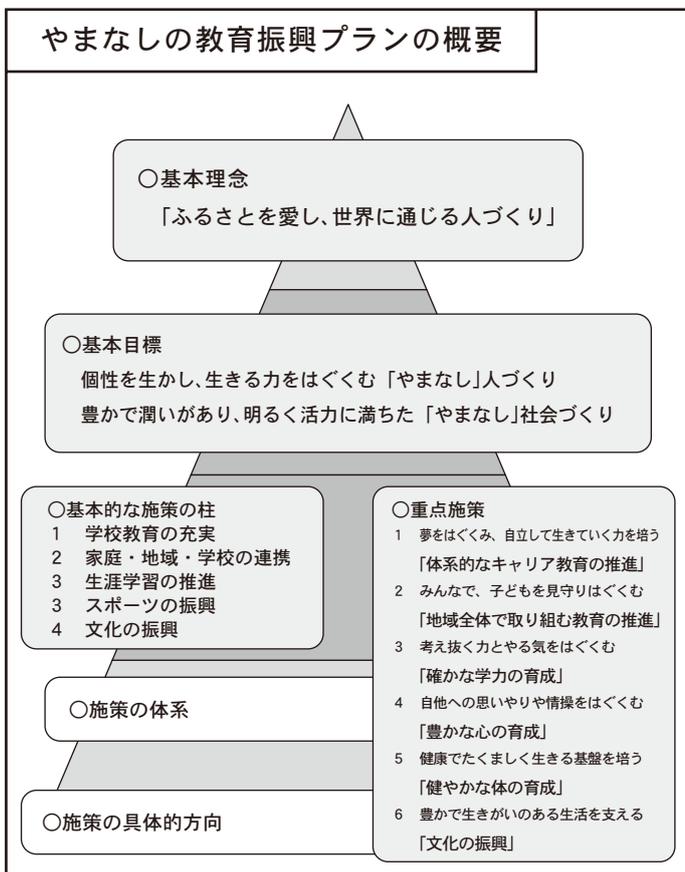
「個性を生かし、生きる力をはぐくむ『やまなし』人づくり」

子どもたち一人ひとりの個性を大切にし、体系的なキャリア教育を行うことにより、社会生活に必要な知識や技能を習得させ、自らの生き方を考え行動できる能力・態度等を育てることに努めます。また、「やまなし」の持つ地域の教育力を活用しながら、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成を図ることにより、社会でたくましく生きていくための力を身に付け、ふるさとに対する愛着と誇りを持った人づくりに努めます。

「豊かで潤いがあり、明るく活気に満ちた『やまなし』社会づくり」

県民一人ひとりがいつで

もどこでも学べるとともに、その成果を社会で活用できること、また、県民が健康で豊かに生きるために、一人ひとりのニーズに応じて、いつでもどこでもスポーツに親しむことができること、さらに、「やまなし」の魅力ある地域文化や国内外の優れた文化芸術とふれ合い、文化芸術活動ができることにより、豊かで潤いがあり、明るく活気に満ちた生きがいのある人生を送ることができ、社会づくりに努めます。



□重点施策

「夢をはぐくみ、自立して生きていく力を
培う『体系的なキャリア教育の推進』」

キャリアとは個々人が職業生活や家庭生活等社会の中で経験する様々な立場や役割を通じて得る経験・技能等の積み重ねのことを言います。キャリア教育とは、児童生徒一人ひとりにふさわしいキャリアが形成されることを目指し、児童生徒が自己を見つめ、社会の中での役割等を考える中で自分らしい生き方を探すことを支援するとともに、その実現に必要な意欲・態度・能力を育てる教育です。

キャリア教育は、子どもたちが、将来に対して夢や希望を抱き、学ぶことや働くことの意義を理解し、意欲を高め、社会人・職業人として自己を生かしていく基礎となる能力や態度を身に付け、社会で自立して生きていくための「生きる力」を

はぐくむことにつながります。

キャリア教育は今までも学校種ごとに、様々な教育活動を通じて行われてはいますが、発達段階に応じた体系的な取組は十分とは言えず、本来の目的にまで達していない事例が見受けられます。

キャリア教育の推進にあたっては、企業など地域の方々や保護者の御理解・御協力を得る中で、就学前から小・中・高等学校段階までを見通し、それぞれの代表者などが協働して発達段階に応じた学習プログラムを開発するとともに、全ての教員がキャリア教育の重要性を理解し、指導力を向上できるような取り組みでいきます。

「みんなで、子どもを見守りはぐくむ」『地域全体で取り組む教育の推進』

地縁的なつながりの希薄化や個人主義の浸透等により、地域における子どもたちの体験機会の減少や、大人が地域の子どもと積極的に関わろうとしない、いわゆる「地域教育力の低下」が指摘されています。そこで、家庭・地域・学校や行政等、地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりに取り組むことが必要となっています。

郷土の先輩や地域を支えてきた高齢者の方々等と子どもたちとの交流を推進する「やまなし地域塾」の取組等を通じ、地域のみなが学校を支援する体制を整え、学校内外の安全確保、放課後や週末の子どもの体験・交流の場づくり、地域活動への子どもの参

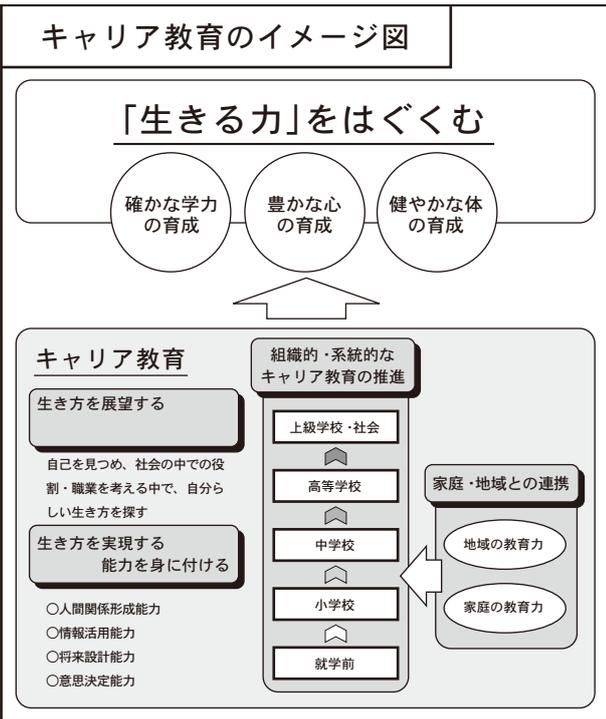
加促進、開かれた学校づくり等、地域全体で取り組む教育の推進に努めていきます。

本計画では、このほかにも重点施策として、「考え抜く力とやる気をはぐくむ『確かな学力の育成』」、「自己への思いやりや情操をはぐくむ『豊かな心の育成』」、「健康でたくましく生きる基盤を培う『健やかな体の育成』」、「豊かで生きがいのある生活を支える『文化の振興』」に取り組んでいきます。

県民の皆様をはじめ、市町村、関係団体の方々には、本県教育振興のため、より一層の御理解と御協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

※「やまなしの教育振興プラン」は、県のホームページでご覧いただけます。

<http://www.pref.yamanashi.jp/kyouiku/keikaku/index.html>



特集2

開館30周年記念展「山梨に眠る秘蔵の日本美術」

— 県立美術館 —

山梨県立美術館では、開館以来、本県にゆかりある作家や作品、および県内に所在する美術品の調査・研究を進めてきました。その結果、寄贈者のご好意はもちろんのこと、こうした調査・研究の蓄積などにより、収蔵品は1万点を超えるまでになりました。一方で、各所蔵家に美術品の保全や公開の必要性をご理解いただいた上で、数多くの寄託作品の保管も行っています。

当館は昨年11月に30年の節目を迎え、記念事業としてミレー館のオープンをはじめ、各種イベント、記念特別展を開催してきました。その中で、秋季には特別展「県美30年の歴史 わたしが選ぶこの一点」を開催し、所蔵品の中から名品の数々を紹介しました。それに続き本展では、寄託作品をはじめ、県在住のコレクターが所蔵されている日本美術の優品を特別展観しています。

200点近い寄託作品は、常設展示を中心に展示され、数多くの来館者に鑑賞されてきましたが、厳選された優品をまとめて紹介するのは初めての試みとなります。また、県内の旧家に先祖代々伝わる珍品や、美術愛好家が嗜好を貫いて収集した名品も紹介します。

□第1章 「古美術の絵画」

古くは南北朝時代（14世紀後半）の《羅漢図》から、江戸狩野派の基礎を築き、江戸画壇の頂点に君臨した御用絵師、狩野探幽などの江戸時代の作品までを紹介します。探幽の《竹虎図》や《雲龍図》といった漢画は將軍家をはじめ、大名家に好まれ、武家屋敷の床の間を飾るに相応しい威風

堂々とした作品となっています。

また、伝統的な大和絵で室町期以降、隆盛を極めた土佐派を江戸時代に再興させた土佐光起の細密で色彩鮮やかな《鶉図》は、光起の最も得意とする画題のひとつとして知られています。これら狩野派や

土佐派といった伝統的な流派様式に飽き足らず、写生を重視して独自の画風を確立した円山応挙の《琴高仙人乗鯉図》や応挙に学んだ四条派、呉春の《鶴亀図》、《雨中山水図》、さらには江戸後期の関東画壇の重鎮、谷文晁の《牡丹双孔雀図》、《鷹図》など様々な流派や画家たちの名品も紹介しています。

一方で、庶民に分かりやすい絵画を描いて禅の布教をおこなった禅僧、白隠の《達磨図》や《関羽図》、《七福神図》は、素人っぽさを残しながら味わいある作品として人気を集めた佳作となっています。

□第2章 「鉄斎、小蘋と近代の大家たち」

第2章では、富岡鉄斎と野口小蘋を中心に日本近代絵画史に名を残した画家たちを取り上げていきます。「最後の文人画家」と称される鉄斎と、明治から大正にかけて南画壇で活躍した小蘋は、いずれも山梨にゆかりのある画家です。鉄斎は、明治8年に生涯で一度だけ富士登山を行います。そのときに甲府を拠点に吉田口から登りました。



谷文晁 《牡丹双孔雀図》
1802年

下山は、静岡側でしたが、途中から甲府へ引き返し、富士川を下って東海道へ出ました。本展では、そのときの富士登山に関連した《登嶽巻》、《富士山巔麓略図》を紹介するとともに《十六羅漢図》などの人物画の名品もあわせて紹介しています。

小蘋は、滋賀県の酒造業野口家に嫁ぎ、その営業所であった甲府へ3年間ほど居住し、その後、上京して東京画壇で活躍しました。本展では、小蘋の得意とした人物・山水・花鳥、それぞれの代表作を紹介しています。《西王母図》は、第3回内国勸業博覧会において2等妙技賞を受賞した小蘋の美人画における頂点を極めた作品です。《甲州御嶽図》は昇仙峽の実景を基調としながらも小蘋自身における印象を加味した心象風景として描かれています。これは池大雅や谷文晁といった江戸時代の文人画家に好まれた真景図の系譜にあり、近代を代表する真景図と言えるでしょう。そのほかにも、近代南画壇の重鎮、小室翠雲や関西画壇を牽引した竹内栖鳳の若描き作品など珍品の数々を紹介しています。

□第3章 「山梨ゆかりの近代絵画」

第3章では、山梨出身、もしくは山梨で作画活動を行った近代画家たちを取り上げています。山梨の近代南画壇の基礎を築いた竹邨三陽をはじめ、三枝雲岱、近藤東来、中村蘭林、野口小蕙ら明治から昭和にいたる南画壇で活躍した画家の名品が並びます。一方で、流派や文人画（南画）などの伝統的な様式を用いるのではなく、近代美術教育を基礎に活躍した画家たちの作品も登場します。

東京美術学校（現東京藝術大学）で学んだ葦崎市出身の河内雅溪は、狩野派の橋本雅邦に師事しますが、伝統的な様式を咀嚼した上で新たな西洋絵画の技法や理念を学びました。写実的でありながらも幻想的な雰囲気漂う《昇仙峽之図》は、近代という新しい時代の山水画として高く評価できます。

笛吹市出身で、同じく東京美術学校で学び、同校助教教授であった鶴田機水は、将来を嘱望されていましたが41歳の若さで没しています。現在はありませんが、その技量の高さは十分に認められます。



野口小蕙 《西王母図》

1890年
美術品をご覧いただき、本県の芸術水準の高さを感じていただくとともに、美術へのさらなる関心や愛着を生んでいただければ幸いです。

南部町出身の近藤浩一路は、はじめ洋画を学びますが、漫画記者として人気を博し、やがて院展を中心に活躍して近代を代表する水墨画家となります。《鶏冠井青嵐》は、行方不明であった「京洛十題」シリーズ3点のうち、近年に発見された作品の一つであり、浩一路の代表作に数えられる名品です。

また、南アルプス市へ疎開して山梨の風景を描いた川崎小虎や、官展へ出品をやめて甲府にアトリエを築き、画塾を開いて大学で教鞭を執り、後進の育成に尽力した近藤乾年など、日頃、常設展示でお馴染みの画家の作品も紹介しています。乾年の《百大黒》や《紅葉に猪図》などは県立美術館の所蔵品にはない画題や様式による珍品であり、画家の作域の広さを知る佳作となっています。そうしたゆかりの画家の中でも山梨の近代日本画を代表する画家である望月春江の《春に生きんとす》は、帝展へ初入選した作品で、花鳥画家、春江のデビュー作とも言える秀作です。

そのほか、現代における奇想の画家とも言える三枝茂雄やのむら清六も紹介しています。清六の《カンナ図》は燃え上がるような真っ赤なカンナの上に「活々」の文字が躍っていて見る者を元氣付けます。

本展は以上の主だった作品を含め、約90点を紹介しています。多くは初公開となります。

■次回特別展のご案内

ベルギー王立美術館コレクション
ベルギー近代絵画のあゆみ
バルビゾン派、印象派、フォーヴ
会 期：平成21年4月18日（土）
～7月5日（日）

会 場：特別展示室



河内雅溪
《昇仙峽之図》
制作年不明

会 期：～平成21年3月29日（日）
（一部展示替えを行い、3月10日から
後期展示）

会 場：特別展示室

休 館 日：3月16・23日

開館時間：午前9時～午後5時

（入館は午後4時30分まで）

入 場 料：一般 一〇〇〇（八四〇）円

大・高生 五〇〇（四二〇）円

中・小生 二六〇（二一〇）円

※（ ）内は20名以上の団体、前売り料金、県内宿泊者割引料金

小・中・高校・特別支援学校生は土曜日無料、県内65歳以上の高齢者（健康保険証等持参）は無料、障害者手帳をご持参の方はご本人とその介護者1名が無料

平成21年度第30回関東地区学校図書館研究大会甲府大会について

— 高校教育課 —

平成21年度第30回関東地区学校図書館研究大会甲府大会が、平成21年8月6日(木)～7日(金)の2日間開催されます。学校図書館や読書に関する理論・実践研究を目的とし、山梨学院大学を会場に、関東地区の小中学校・高等学校などの学校図書館関係者が一堂に会します。本大会は、山梨県学校図書館教育研究会ほか4団体が主催し、文部科学省ほか9団体の後援をいただくことになっています。

開会式に続く全体会において、山梨に関する本の執筆や講演活動をされている福岡哲司先生による記念講演、山梨園芸高等学校「すいれき太鼓」のアトラクションで「やまなし」の文学、芸能を紹介し、大会の幕が開きます。

研究発表は大会主題である「学びの力と豊かな読書生活の創造」学びの力の基幹となる読書の在り方と情報活用能力の育成」の下、関東地区1都7県の、小中学校、高等学校、特別支援学校の研究成果を発表する30の分科会を予定しています。

「知識基盤社会の進展」や「グローバル化」など社会が変化する中で、『確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和』を重視する「生きる力」をはぐくむことは一層重要になっています。また、21世紀を切り拓く心豊かでたくましい日本人の育成を目指す観点から改正された教育基本法や各学校段階の教育の目標が規定された学

校教育法、平成20年1月の中央教育審議会答申を受け、平成20年3月には小中学校学習指導要領の改訂が行われるなど教育の改革も進められています。

学校図書館の大切さは、新しい学習指導要領の中で、国語科の言語活動例として、「読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること」や「新聞やインターネット、学校図書館の施設などを活用して得た情報を比較すること」などが位置づけられたことにも表れています。学校図書館が学習情報センター・読書指導センターとしての使命を十分に果たすことにより、児童生徒の「学びの力」を育成することへとつながり、この「学びの力」が子どもたちの豊かな読書生活、「豊かな心」をはぐくむことへとつながっていくと考えます。

本研究大会において、日々の実践や研究テーマに沿った創意工夫などにつ



前回川越大会の様子

いて広く交流が深められることで、今後各地で学校図書館の活性化が図られ、新たな学びの力と豊かな読書生活が創造されることを目指す、充実した大会にしたいとの思いで、準備を進めています。多くの方々のご参加をお待ちしています。



前回川越大会の様子

主催

山梨県学校図書館教育研究会、山梨県高等学校教育研究会学校図書館部会、関東地区学校図書館協議会、(社)全国学校図書館協議会

後援(予定)

文部科学省、山梨県教育委員会、甲府市教育委員会、山梨県連合教育会、山梨県高等学校教育研究会、山梨県公立小中学校長会、山梨県高等学校長協会、山梨県公共図書館協会、(財)山梨県教育公務員弘済会

「農村漁村生活体験事業」実施報告

(文部科学省「農山漁村におけるふるさと生活体験推進校」)

— 義務教育課 —

○事業の紹介

本事業は、子どもの学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識などを育み、力強い子どもの成長を支える教育活動として、今年度から始まりました。農山漁村において、1泊以上の民泊を含めた長期宿泊体験活動を行うもので、全国で展開されています。

新学習指導要領においても、「集団宿泊活動や自然体験活動などの豊かな体験活動」を通して子どもの内面に根ざした道徳性の育成を図るなど、体験活動の充実が求められています。

本年度は、次の2校の推進校が、静岡県漁村や長野県の農山村で様々な体験活動を行いました。

○指定校からの成果の報告

■中央市立田富南小学校

田富南小学校では、本年度「農村漁村生活体験事業」のモデル校の指定を受け、7月23日から静岡県牧之原市を拠点に3泊4日の臨海自然活動体験を実施しました。



実施学年は5、6年児童86名。活動のねらいを「山に囲まれ、海をあまり目にする機会のない本校児童が、異なる地域での生活体験を通して自然生活や地域への興味関心を持ち、地域や自分自身の生き方を考えること」と設定し、活動をスタートさせました。

太平洋の大海原を目にすると子どもたちから割れんばかりの大歓声。3つの民泊に分かれ、地引

■南部町立万沢中学校

万沢中学校では、今年度、「農村漁村生活体験事業」の指定を受け、様々な体験活動に取り組みできました。その中で特に宿泊を伴うものとして、春には漁業に関わる体験活動を主とした「海辺の体験教室」、冬には農業に関わる体験活動を主とした「雪国体験教室」を実施しました。



「海辺の体験教室」では、地引き網や干物作りを体験しました。地引き網では網を引くロープが

200m近くあり、参加者全員が大変な思いで網を引き上げましたが、網にかかった魚はごくわずかで

「漁業の大変さ」を実感することができました。また、干物作りでは、イカの干物を作り、家で食べてみましたが、自分で作った干物は格別の味だったようです。

「雪国体験教室」では、スキーや雪遊び（雪像作り）を行ったりと普段味わうことのできない生活を体験したり、自分たちが普段食べているわさび漬や味噌を作るなど、農産物の加工に関する体験を行いました。寒い地域に住む人たちが厳しい自然の中で行う作業を体験することができ、生徒たちも改めて農業の大変さや、大切さ、自分たちの住む地域との違いなどを学ぶことができました。また、こうした様々な体験活動を通して「規律ある生活」「社会の活動への参画」など、新たな道徳的価値も併せて学ぶことができました。



○まとめ

この事業は、本年度から始まったばかりですが、各校の報告内容のように、大きな成果が見られました。今後、文部科学省では、小学校を対象にこの事業を拡大させていき、5年後をめどに全国の小学校で農山漁村において長期宿泊体験活動ができるよう、受け入れ体制づくりを進めています。本県では、「道志村」が受け入れモデル地域に指定されており、本年度は主に横浜市の小学校を受け入れ、民泊による体験活動を行いました。

来年度の農山漁村生活体験事業（一部改名）は、小学校の推進校5校で実践する予定です。

知ろう山梨の歴史！「山梨の遺跡展2009」と各種事業の紹介

— 埋蔵文化財センター —

山梨県埋蔵文化財センターでは、3月14日（土）から4月5日（日）まで、「知ろう山梨の歴史！『山梨の遺跡展2009』」と題して、平成20年度中に埋蔵文化財センターや市教育委員会で実施した発掘調査の成果を、土器や石器等の出土品、写真パネルを用いて紹介します。

都留バイパス建設に先立ち調査を行った都留市の美通遺跡では、縄文時代中期（今から4千年～5千年程前）の床面に平坦な石を敷いた竪穴住居跡が見つかりました。また、リニア実験線の建設に先立ち調査を行った笛吹市の三光遺跡では、同じく縄文時代中期の美しい装飾が施された土器が多数見つかっています。また、山梨各地にある鎌倉時代から戦国時代のお寺の発掘調査の成果も紹介します。

さらに、これらに加えて「武田関連城館跡の調査と展望」のコーナーも併設します。

このコーナーでは市教育委員会が行った武田氏に関連した城跡や館跡の最新の学術調査とこれからの整備の展望を紹介します。

武田信玄が政務を執った甲府市の国史跡武田氏館跡を始めとして、甲斐源氏の発展の礎を築いた逸見清光の築城と伝えられる北杜市の国史跡谷戸城跡、その清光の子であり甲斐武田氏の祖である武田信義が館を構えたと伝えられる韮崎市の市史跡武田信義館跡、信玄の父信虎が誕生したと伝え

られる笛吹市の信虎誕生屋敷遺跡等を紹介いたします。

ここで紹介した遺跡を含め、18以上の県内各地の遺跡が一同に会します。住んでいる地域の歴史に触れるまたとない機会です。ぜひ足をお運びください。

■遺跡展の概要

開催期間 平成21年3月14日（土）

～4月5日（日）（月曜休館）

観覧時間 午前9時～午後5時

（入館は午後4時30分まで）

会場 山梨県立考古博物館多目的室

観覧料 無料

※考古博物館常設展観覧の際には観覧料が必要です



約5千年前の深鉢型土器
（笛吹市三光遺跡）

■各種事業の紹介

・出前支援事業

県内の学校を対象として行っています。学校まで職員が出張し、土器作りから土器焼き、勾玉作りや石器作り等、授業に合わせた内容で支援します。

・発掘体験セミナー

一般の方々を対象に行っています。実際に発掘調査している遺跡で、半日単位で体験していただきます。

・先生のための考古学講座

学校が夏休みの時期に先生方を対象として2回行っています。

1回目は、土器の梱包の仕方や土器作り等、実践的な講座を行います。2回目は、土器焼きを行ったり、火起こし道具を使って火起こしの体験をしていただきます。

1回目と2回目を修了した先生方には、考古資料等の貸し出しをいつでも受けられる修了証をお渡しています。

このほかにも、考古学資料等の貸し出し、職場体験学習、講師の派遣も行っていますので、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ 埋蔵文化財センター

電話 055-266-3016

FAX 055-266-3882

「平成20年度新体力テスト・健康実態調査」結果の概要

— スポーツ健康課 —

県教育委員会では、児童生徒の健康・体力の向上と、体育・スポーツ活動の指導上の基礎資料として活用することを目的に、平成17年度から県内全公立小・中・高等学校の児童生徒を対象にした「新体力テスト・健康実態調査」を実施しています。また、昨年度から調査結果の分析・考察については、山梨大学に委託しています。

この度、その調査結果がまとまりましたので、概要についてお知らせします。

1 調査の概要

- (1) 調査内容 新体力テスト（8種目）
健康実態調査（10項目）
- (2) 実施時期 平成20年4月～7月
- (3) 実施人数 県内公立小（200校）・中（93校）
・高（全日32校、定時8校）
- | | |
|-----|---------|
| 合計 | 94,763人 |
| 実施率 | 97.8% |

2 調査結果の概要

(1) 新体力テスト【全国との比較】

本県の結果と全国（平成19年度）の結果を比較すると、総合的な体力を示す合計点では、小学生女子は概ね全国レベルに近づきましたが、男女とも全ての年齢で全国を下回っており、本県の児童生徒の体力・運動能力は全国と比較し、依然低い状況にあることが分かりました。また、中・高等学校段階で男女ともに全国との差が広がる傾向が見られました。

(2) 新体力テスト【4年間の推移】

男女ともに、定時制を除く全ての年齢において平成17年度と比較し、改善傾向が見られました。また、総合評価分布では、ほとんどの学年で平成17年度以降、優れているA・B評価の割合が増加し、劣っているD・E評価の割合が減少しました。

測定項目別では、特に「上体起こし」「反復横跳び」「20mシャトルラン」の記録の伸びが大きく、「50m走」「立ち幅跳び」「ボール投げ」は、調査開始時から共通して、横ばいか低下傾向が見られました。

このことから、本県児童生徒の体力の特徴として、体力系の項目に比べ、操作系の身体能力に課題があることが分かりました。



(3) 健康実態調査【平成17年度との比較】

全体的には31.1%の項目で平成17年度の数値を上回り、わずかではありますが4年間で生活習慣の改善傾向が伺えました。特に中・高校生にスナック菓子等の摂取やTV視聴時間等で改善された項目が多く、逆に小学校低学年ではあまり改善傾向は見られませんでした。

(4) 健康実態調査【健康3原則の状況】

①運動頻度の状況

男女ともに一定の年齢から運動離れの傾向が見られ、男子は13歳頃から、女子は男子と比較し2年ほど早く、11歳頃から運動をしなくなる傾向が見られました。

②朝食摂取の状況

男女ともに12歳を境に「毎日食べる」割合が減少しはじめ、中・高等学校では、約15～25%の生徒に、小学校でも約6～11%の児童に毎日朝食を食べる習慣が身に付いていないことが分かりました。



③睡眠時間の状況

小学校と中・高等学校では生活スタイルが定期試験や受験等の関係から大きく異なるため、加齢とともに睡眠時間は短くなる傾向が顕著に見られました。

④生活習慣と体力との関係

よく運動をし、朝食をしっかり食べる児童生徒の体力は高い傾向にあります。しかし、睡眠時間と体力の関係は、睡眠の質や朝の過ごし方、運動の実施などが影響するため、小学校では睡眠時間が長いほど体力は高い傾向にありますが、中・高校生は睡眠時間が長いほど体力が低い傾向が見られました。

3 調査結果からみた今後の課題

調査開始から4年間で全体的な改善傾向は見られています。しかし、基礎的な体力要素と比較し、操作系の身体能力に課題があります。これは、単に運動不足ではなく、身体の操作性を要する遊びや運動の不足が考えられます。そのため、各学校においては「できる」楽しさを体験させる体育の授業を充実することはもとより、一校一実践運動などにおいて、遊びや運動の質に視点を向け、進んで運動に親しむ態度を育てることが重要です。また、小学校低学年からの健康的な生活習慣の確立に向けた継続的な取組も一層求められます。



平成20年度新体力テスト・健康実態調査の結果はホームページからもご覧になれます。

<http://www.ypec.ed.jp/tairyoku/tairyokutest/index.html>

「やまなし若者地域活性化プロジェクト推進事業」実施報告

「ワイワイ（ＹＹ）プロジェクト」

社会教育課

「やまなし若者地域活性化プロジェクト推進事業」（通称「ワイワイ（ＹＹ）プロジェクト」）は、若者たちがアイデアを出し合い、甲府市中心市街地を活性化する取組を通して、地域で活躍するリーダーを育成する事業です。この事業に、甲府市の中心市街地を今よりも元気にしていこうという意欲を持った県内の学生など20名の若者が集まり、5月30日、ワイワイ（ＹＹ）プロジェクト推進委員会を立ち上げました。



会議風景

□活性化アイデアの決定

推進委員会では、活性化アイデアを広く公募することとしました。早朝、通勤、通学する人たちにピラを配ったり、大学にポスターを掲示したり、委員による広報活動によって、高校生、大学生、社会人から36件のアイデアが寄せられました。その中から書類審査、プレゼンテーションによる審査を経て、次の6件のアイデア、「リトル甲府プロジェクト」「飾りつけコンクール」「フリーマーケット」「ヨーロッパ型オープンカフェ」

「山梨県民SHOW」「昭和レトロプロジェクト」を採用しました。

□若者の活気あふれる商店街

9月、アイデアを実施するため、27名からなる実行委員会を立ち上げ、4つのグループに分かれて実施に向けて取り組みました。

アイデアは、12月から実行に移され、まず「クリスマスツリー飾りつけコンクール」と、県内大学のバンドや合唱団等が発表する「県民SHOW音楽部門」を行いました。

それに続いて、1月10日には、3つのアイデアを同時に実施し、甲府銀座通りを舞台として、「フリーマーケット」「昭和レトロ祭り」を開催しました。

「フリーマーケット」では、銀座通りにたくさん



昭和レトロ祭り

の品物が並べられました。「昭和レトロ祭り」では、オープンカフェを兼ねた模擬店、昭和の雰囲気を出した看板や資料の展示、昭和の遊びコーナー、そしてバナナの叩き売りなど



山梨県民SHOW

のパフォーマンスが行われました。さらに、オリオン通りでは、「県民SHOW身体表現部門」を開催し、観客を巻き込んだパフォーマンスが披露されました。

また、1月17、18、24、25日には、小学生が店を開き、まちを盛り上げる企画、「リトル甲府プロジェクト」を行いました。甲府銀座に雑貨店がオープンし、小学生の声が元気に響きわたりました。

□元気なまちづくりのリーダーとして



リトル甲府1号店

若者たちは、広報はもとより、商店街や商工会、市や警察などとの連携に試行錯誤を重ね、企画を実現しました。この経験を生かし、地域のリーダーとして育ってほしいと思います。

ミュージアム甲斐・ネットワーク

～県内博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して～

— 学術文化財課 —

県内の美術館、博物館等が、相互に連携して活性化を図り、活動の充実や利用者へのサービスの向上を目指す「ミュージアム甲斐・ネットワーク」会員施設を紹介します。

TEPCO 葛野川 P R 館 (大月市)

普段、何気なく使っている「電気」が、どのように作られて皆さんのところへ届けられているのか！TEPCO 葛野川 P R 館では、実際に発電所（3コース）をご覧いただきながら「電気」について分かりやすくご案内しております。

①葛野川発電所・葛野川ダム

所要時間：3時間（P R 館見学含む）
案内日：毎日（休館日以外）
案内時間：9:00～12:00 / 13:00～16:00

②駒橋発電所

所要時間：1時間
案内日：12月～4月（水・土曜日）
案内時間：10:00～15:00の間でご案内



①葛野川発電所
専用トンネル5km・地下500mにある世界最大級の有効落差（714m）を誇る発電所

③ハツ沢発電所とその水路設備（国の重要文化財）

所要時間：2時間30分
案内日：12月～4月（水・土曜日）
案内時間：9:30～12:00 / 13:00～15:30
※見学は専用バス2台（最大80名様まで）でご案内致します。（要電話予約）

住 所：大月市賑岡町強瀬 1101-2
電話番号：0554-30-1020
担当者：小林
休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
入館料：無料
駐車場：無料（普通10台、バス2台）



②駒橋発電所
明治40年に運転を開始し、長距離送電の草分けとなった発電所



③ハツ沢発電所とその水路設備
平成17年に国の重要文化財に指定された14km（国内最大規模）におよぶ水路設備

平山郁夫シルクロード美術館 (北杜市)

当館は平山郁夫の絵画とシルクロードの文化と歴史に関する美術品を展示しています。年に2度展覧会を行い、各種講演会や講習会、コンサートを開催しています。

また、青少年に対する学習機会の充実を目的とした、休日を用いた美術館施設の開放、体験プログラムの実施、研修の受入なども行っています。（免除制度は当館HPをご覧ください）

平成19年には、新館部分を増設し、展示・収蔵スペースが倍の大きさになりました。風光明媚な八ヶ岳南麓にお越しの際はぜひご来館ください。（長坂ICから車で10分。JR小海線甲斐小泉駅前すぐ。）



美術館外観
（山梨県第3回福祉のまちづくり施設賞優秀賞受賞）

住 所：北杜市長坂町小荒間 2000-6
電話番号：0551-32-0225
担当者：松山（事務）、堀内（学芸）
休館日：火曜日、展示替え期間、冬季休館
入館料：小中学生無料、高大学生800円、一般1,200円、団体（20名以上）・高齢者は100円割引
駐車場：無料（普通50台、バス10台）
U R L：<http://www.silkroad-museum.jp/>



美術・歴史の勉強だけでなく、ビデオ鑑賞や芝生の庭で遊ぶこともできる



講演会の様子
展覧会の内容に合わせた勉強会を実施している



らくがき

「人生こんなもん？」
宮澤 芳美

こう毎日仕事に家事に、子供の学校行事や地域活動などに追まわられていると、ふと人生これでいいのか、と焦燥感や閉塞感におそわれることがある。普段はそのままほったらかしであるが、6年前に一大決心、1歳の娘を実家に預け、一週間ベトナムへ。といっても生徒を引率した仕事の一環ではあるが、兎に角このチャンスを逃したら当然海外へなんか行けないぞと強烈に思い、申し込んだら運良く行けることに。

目的は植林ボランティア。ベトナム戦争で枯れ葉剤により不毛となった土地に、成長が早いマングローブの苗を植えるというもの。県内の高校生を中心に中学生・大学生・社会人の約60名の団体である。毎年参加しているという年配の方や環境問題に関心の高い会社社長さんなどパワフルで器の大きい方々に感心。中でも主催者側でテキパキと仕事をこなす職員の方がカッコよくて、憧れの女性の一人にチェック。ホーチミン市のエネルギッシュなベトナム人（一家4人が1台のバイクに乗る！）や交流した現地の素朴な小学生、戦争時の地下基地、無数の戦没者名を刻んだ寺院の壁、枯れ葉剤の影響で生まれた奇形児の標本など、正の部分も負の部分も受入れ、次は親子で参加したいなと帰国。こういう時に限って、家では娘が水疱瘡を罹らったというオマケつき。（苦笑）
(山梨園芸高校)



「私と海外旅行」
武井 恒

大学時代、ニュージーランドを訪れた。知的障害をもった男性（Aさん）と共にである。企業が行っている「障害者リーダー育成海外研修」で、私がAさんの支援者となったからだ。3か月間、寝食を共にし、研修を行う。私の主な役割は通訳だった。

通訳といっても、それほど英語が得意なわけではない。見知らぬ土地で、2人だけの研修。Aさんにとっては、支援者の私だけが頼りなのだ。とにかく知っている英語を使い、現地の人に話しかけた。未熟な英語でも「伝えたい」という思いがあれば、通じる。身振り手振り、モノマネで乗り切った。

現地の文化を知るという名目で観光もした。最北端から最南端まで、ツアー旅行では行けない場所まで行った。透きとおった青い海、人口より多い羊、ロード・オブ・ザ・リングのロケ地…。感動は数え上げるときりがない。海外に行くと、驚きや発見があり、自分の視野が広がる。机の上では学べないことがあふれている。その体験を子どもたちにも伝えていきたい。次の海外旅行は、フランスの予定。夢はますます膨らむ。

(やまびこ支援学校)

— 県立文学館 開館20周年記念 —
太宰治展 生誕100年
会期 平成21年5月2日（土）～6月28日（日）

県立文学館では、開館20周年の記念として、生誕100年を迎える太宰治（1909～1948、青森県生まれ）の展覧会を行います。

太宰は長く小説が書けない時期が続いた後、1938（昭和13）年9月、井伏鱒二の誘いで御坂峠の天下茶屋を訪れ、執筆活動を再開します。11月、御坂峠を降りて甲府に下宿、翌年1月には、当時の都留高等女学校の教諭だった石原美知子と結婚。甲府での落ち着いた生活の中で「富嶽百景」「女生徒」などを執筆、「I can speak」や「新樹の言葉」など、甲府を舞台とした小説も発表しています。同年9月、三鷹に転居した後も、甲府の石原家に疎開して「お伽草紙」を完成させ、甲府空襲の体験を小説「薄明」として発表するなど、山梨は太宰の生涯と作品に深い関わりを持っています。戦後、「斜陽」「人間失格」などの傑作を書き上げますが、1948年6月、玉川上水に入水、遺体は19日、39歳の誕生日に発見されました。1953年10月、全国に先駆けて太宰の文学碑が御坂峠に建てられ、「富嶽百景」の一節「富士には月見草がよく似合ふ」が刻まれました。

本展では、太宰治の原稿、書簡、書画、愛用品、写真など約200点の資料により、太宰の生涯をたどります。



太宰治

「地域から」

～ 総合的な学習の時間の取り組みを通じて ～

上野原市立平和中学校

本校は、豊かな自然に恵まれ、旧甲州街道と新しい中央自動車道が隣接する場所に位置しており、今年度末には58年間という長い伝統と歴史に終止符を打つことから、今、全校生徒57名は「3年生へ贈る会」「閉校式」に向けて熱心に取り組んでいます。

総合的な学習の時間では『地域から』をテーマに、環境・福祉・人権、そして国際理解へと学びを広げています。学習の流れとしては、1年では「触れる」、2年では「深める」、3年では「広げる」という段階を持たせています。

◇ 10月の総合の日

1年生は「上野原の伝統文化、環境」のテーマに基づき、小テーマを設定して、市内の神社・寺院・商店・営業所及び個人宅等を訪問し、聞き取り調査や体験活動を行いました。



1年総合の日（体験学習）



2年総合の日（職場体験）



ポスターセッションによる生徒発表会

2年生は自分自身を見つめ、キャリア教育の一環として将来を見据えた「職業」についての学習で、上野原、大月の販売所、店舗、企業等で職場体験学習をしました。3年生は、「いのち」にかかわるそれぞれのテーマごとに上野原市内や東京へ出かけ、関係機関を訪問しました。

◇ 全校生徒ポスターセッションによる発表会

12月14日に授業参観の中で発表会を行い、発表者と聴衆が、対話の中から多くの知識を得ることができました。参加した多くの保護者からも、個性ある発表に感心の声が上がっていました。

授業改革進行中

県立北杜高等学校

八ヶ岳の麓、北杜市日野春の地に、大樹プラタナスに見守られた北杜高校があります。総合学科・普通科・理数科を抱えた北杜高校は平成20年度から国立教育政策研究所指定の「総合的な学習の時間研究指定校」となりました。これは全国の高校から唯一選ばれ、総合的な学習の時間における評価を研究するものです。

これに合わせ、北杜高校では総合的な学習の時間に限らず全ての授業の在り方を見直そうと「授業改革プロジェクト」が始まりました。「学びの創造」を最重点課題とし、「学ぶ喜び・学ぶ感動・学ぶ楽しさ」を追究した授業を目指しています。

具体的行動目標として『①考えろ！考えろ！考えろ！ ②「調べる、まとめる、書く、話す」力をつけよう ③覚えるだけの勉強はやめよう』を掲げ、全ての生徒が身に付けるべき学力とは何かという、教育の根源にかかわる問題までも視野に入れた改革が進行中です。

本校は、今年3月に第6回卒業式を迎えますが、1916年（大正5年）に創立した北巨摩郡立農学校の時代から数えると実に91回を超える卒業生を送り出したこととなります。この伝統に甘んじることなく、北杜高校は改革の道をさらに進めて行く決意です。



生徒を見守るプラタナス



パソコン室での実習



総合的な学習発表会

不登校への対応についてく相談活動を通して見えてくるものく

— 総合教育センター — 教育相談部 —

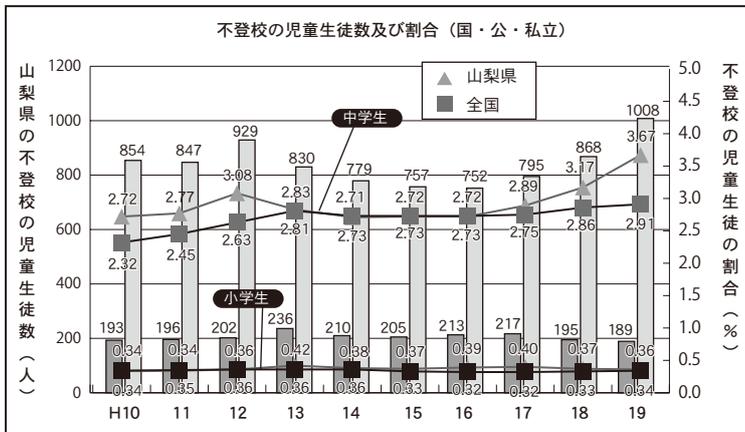
平成19年度の全国的な調査によると、病気やケガ、経済的理由など以外で年間30日以上休む、いわゆる不登校児童生徒数は全国の小中学校でおよそ13万人に及ぶという結果が出ています。

全国の小中学校の不登校児童生徒数は、平成13年度をピークに減少傾向にありましたが、18・19年度と2年間は増加に転じています。また、本県でも中学校においては、ここ数年増加傾向にあります。

不登校になったきっかけについては、小学生では家庭生活、中学生では学校生活が起因になっていることが多く、小学生では親子関係、中学生では友人関係、学業不振などが影響していると報告されています。

このような状況下、教育相談部の相談内容を主訴別に見ると、平成20年12月末現在で、電話相談は件数の多い順に、不登校・学校問題・情緒問題となっており、面接相談では、不登校・情緒問題・学校問題の順となっています。どちらも不登校の問題が一番多く、昨年度まで多かったいじめの問題は件数が減っています。

不登校問題の相談を通して感じることは、不登校の児童生徒は学校を嫌っているのではなく、「人間関係にうまくいっていないこと」が原因の一つである



学校基本調査 (文部科学省)

不登校になった児童生徒が学校へ、そして教室に入れるようになるためには保護者、友達、教師の三者の適度な関わりが必要だと言われます。まずは保護者が子どもの行動の変化を見ながら、登校できるように、いつ、どんな時に後押しするかを見極めることが大切なことです。不安がいっぱいの時こそ「応援してくれ、守ってくれる」保護者の存在こそが大切だということです。また、教室に入る

ということでは、登校できたからといって、その子の不登校の問題が本場の意味で解決したとは言いがたくなります。不登校の児童・生徒に大切なことは、一人ひとりが抱えている問題乗り越え、「生きる力」を身につけることです。特に「社会性」を身につける「人とのかわり方」いわゆるコミュニケーション能力を身につけることが大切だと言えます。

の時間を友達と一緒に過ごす」ということです。そこに、親しい友達や助けてくれる友達がいるという安心感があると、教室に入りやすくなります。最後に、実際に教室へ入るまで、入ってから安定するまでの間は、学級担任の仲立ちと手助けが必要になります。親しい友達がいるだけでなく、次に何をすればよいか指示してくれる教師がいると、安心できます。これら三者の関わりがポイントと言えます。

教育相談部では県内の児童生徒の不登校問題を始め、悩み事や困っていることなどの相談に応じます。面接や電話による相談を通してともに考え、問題の改善や解消を図り、明るく健やかで心豊かな生活を送ることができるよう本人・保護者・教職員を援助します。ぜひご利用ください。

電話相談
055 - 263 - 3711
 24時間、365日いつでも
 相談員が対応します。

面接相談
 本人・保護者の方などに教育相談室においていただき、相談員がお話をうかがいます。
相談日 毎週月～金曜日
相談時間 午後9時～午後5時
 (除く祝祭日)
 ※事前に電話で日時をご予約ください
 電話：055-263-3711

新委員長に

古屋知子氏が就任

県教育委員会では、金丸康信委員長の任期満了に伴い、12月19日の教育委員会において、後任の第71代委員長に古屋知子氏を選任しました。新委員長の任期は平成20年12月21日から平成21年12月20日までです。

昨年12月21日、第71代県教育委員長に就任いたしました。

昨年は、大分県教員採用汚職事件をきっかけに教育委員会制度が問われました。『形骸化した教育委員会』という言葉が、日々各メディアから流れもしました。しかし、本県の教育委員会は、定例委員会においても常に活発な意見が交わされ、必要であれば各課室長ともじっくり話し合いが持たれております。今後も教育委員がリーダーシップを発揮し、十分なチェック機能を果たしていきたい



委員長
古屋知子

と思います。

携帯電話の問題、不登校児童・生徒の問題等早急に解決しなければならぬ課題も山積している山梨県の教育界ですが、子供は社会の宝、山梨の宝、国の宝であり、また未来を担うかけがえのない存在です。

ふるさとを愛し、世界に通じる心豊かなたくましい人材を育てていくためにも、県教育委員会に求められている役割・責任の重さを改めて認識し、気を引き締めて職責を全うしたいと思います。

峡東地域新設高校の

校名募集について

新しい学校づくり推進室

平成22年4月、石和高等学校と山梨園芸高等学校を統合再編し、現在の石和高等学校の地に、「普通科」「食品化学科」「果樹園芸科」「総合学科」の4学科からなる高等学校が新たに開校します。

そこで、地域や県民の皆様にも親しまれる学校となるよう、広く校名を募集します。

新しい高等学校にふさわしい校名をぜひお寄せください。

◆応募方法

高校教育課新しい学校づくり推進室までメールまたは官製ハガキにてご応募ください。

E-mail:koukokujo@pref.yamanashi.lg.jp

◆記載事項

〔高等学校の名称とその理由〕
〔氏名・住所・電話番号〕

◆募集期間

平成21年3月10日（火）～

4月24日（金）【必着】

◆送り先

〒400-8504 甲府市丸の内1-6-1

山梨県教育庁

新しい学校づくり推進室

校名募集係 宛

◆問い合わせ先

新しい学校づくり推進室

電話 055-223-1767

FAX 055-223-1768

レファレンスの道具箱 *山梨の祭りについて調べる* 山梨県立図書館

📖 どの祭りがあるのか調べるには…

『山梨の祭り』（若林賢明／著 山梨日日新聞社 1983）

県内120の祭りについて季節ごとに紹介しています。カラー写真と簡単な解説が付いています。

📖 地域別に調べるには…

『各市町村誌（史）』

民俗・行事・祭礼・信仰等の項目に載っています。また民俗編がある場合は、詳細な解説がされています。

『西原の屋号と年中行事』（山梨県上野原市立西原中学校／編 山梨県上野原市立西原中学校 2008）

中学生による地域についての調査・研究です。年中行事の一覧とカラー写真を用いた解説が収められています。

📖 特定の祭りについて調べるには…

『図説一之瀬高橋の春駒』（塩山市立神金第二小・中学校一之瀬分校／編 塩山市立神金第二小・中学校一之瀬分校 1986）

甲州市塩山の一之瀬地区で行われる春駒についてまとめられた資料です。春駒自体の解説もあります。

※今回紹介した資料以外にも関連資料がございます。ぜひご利用ください。



山梨の文化財

県指定史跡

武田勝頼の墓（甲州市景德院）

（昭和三十三年六月十九日指定）

甲州市景德院には、武田勝頼の墓があります。勝頼は、武田信玄の四男として誕生し、天正元年（一五七三）信玄の跡を継ぎ、武田家の当主となりました。

しかし、天正三年の長篠合戦で、織田信長・徳川家康連合軍に大敗して勢力を弱め、同十年三月十一日に織田・徳川氏に攻められ、田野（現甲州市大和町田野）で滅亡しました。

その死を悼んだ徳川家康は、同年七月に勝頼主従の滅亡地に菩提寺を建立するように指示し、天正十六年に完成したのが田野寺（景德院）です。

境内には、勝頼夫妻、嫡男信勝、殉死した人々の墓所も整備されたといわれています。

その後、安永四年（一七七五）に当時の位職が、勝頼一族と家臣の二百年遠忌を記念して墓所を整備しました。写真中央の宝篋印塔が勝頼、右側の五輪塔が北条夫人、左側が信勝、左右の端が殉死者供養塔です。これらの墓石は、景德院の火災と長年の風雪による傷みが激しかったため、平成十八年から保存修理事業が進められており、また、その際に墓所の下から経石が発見されたことでも注目されています。



主な行事予定

県立美術館

特別展

「開館30周年記念展
『山梨に眠る秘蔵の日本美術』」
5/3～29

特別展

「ベルギー近代絵画のあゆみ」
4/18～5/5

県立博物館

シンボル展

「消えたおかぶとく節供人形
カナカンフツの謎を追う」
3/11～4/13

埋蔵文化財センター

特別展（会場 考古博物館）
知ろう山梨の歴史「山梨の遺跡展
2009」観覧無料
3/14～4/5

県立文学館

平成20年度収蔵品展
「直筆の世界」観覧無料
5/3～29

資料紹介
「生誕100年 太宰治と1909年
生まれの文学者たち」観覧無料
5/4～12

表紙を飾る



作品タイトル

「ほうせきの光がちりばめられて」

この絵は、ローラー遊びをして、できたよりのイメージから、鳥やほしたちを作ろうと思いました。ほうせきの光がみんなの笑顔のようにキラキラかがやいて見えるようにと思いながら作りました。そして、みんなでたすけあいながら生活している様子が頭にうかびました。作品ができあがって、自分でもとてもいい絵ができたと思いました。

指導者 池田一彦教諭

「声かけ あいさつ」みんなで実践!!

◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。

アドレス: kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX: 055 - 223 - 1744

◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。

URL: <http://www.pref.yamanashi.jp/kyouiku/46150769857.html>